

H27-B-3 深度76.59~76.89m 最新活動面の走向・傾斜 (No.119) の変更に伴い、条線方向 (No.120) を変更

- H27-B-3孔 深度76.59mの断層面の走向・傾斜はN42°E14°W※であり、条線観察は上盤側から実施している。※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用

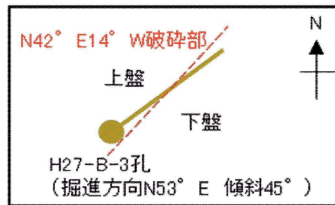
コア写真



凡例

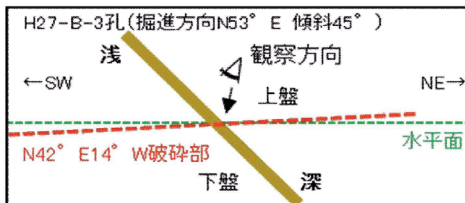
- 条線観察位置
- 断層カウジ
- 破碎部範囲※1
- 最新活動面

※1: 写真上は白色で記載



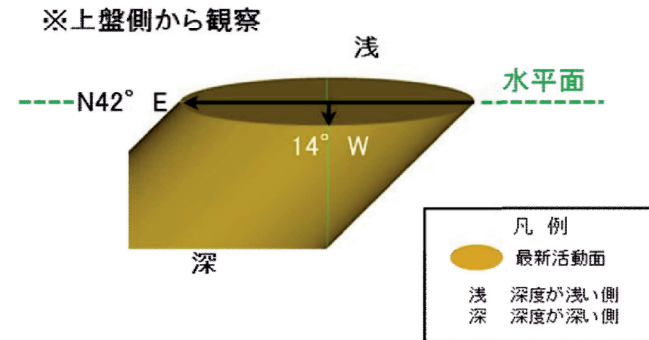
・ボーリングは掘進方向N53° E, 傾斜45° で掘削している。  
 ・破碎部の走向・傾斜はN42° E14° Wであり、ボーリングと破碎部の平面的な位置関係は左図のようになる。  
 ・破碎部は西傾斜であることから、北西側が上盤、南東側が下盤となる。

図1 H27-B-3孔位置平面図(模式図)



・ボーリング(掘進方向N53° E, 傾斜45° )と破碎部(走向・傾斜N42° E14° W)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。  
 ・ボーリング孔の浅い側が上盤、深い側が下盤となる。

図2 H27-B-3孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図

H27-B-3 深度76.59~76.89m 最新活動面の走向・傾斜 (No.119) の変更に伴い、条線方向 (No.120) を変更

- H27-B-3孔 深度76.59mの断層面の走向・傾斜はN42°E14°W※であり、7Rの条線が認められる。※破碎部の走向・傾斜をBHTV画像から取得できなかったことから、同一ボーリングコアの他の不連続面と本破碎部の位置関係から推定した走向・傾斜データを使用

コア写真

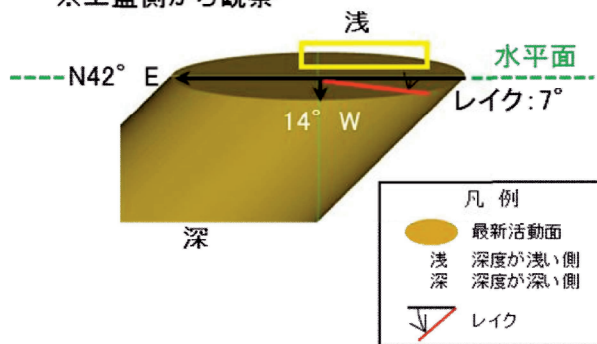


凡例

- 条線観察位置
- 断層カウジ
- 破碎部範囲※1
- 最新活動面

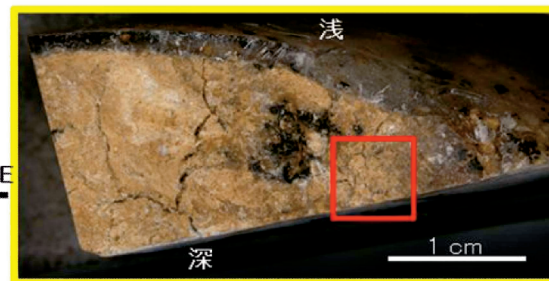
※1: 写真上は白色で記載

※上盤側から観察

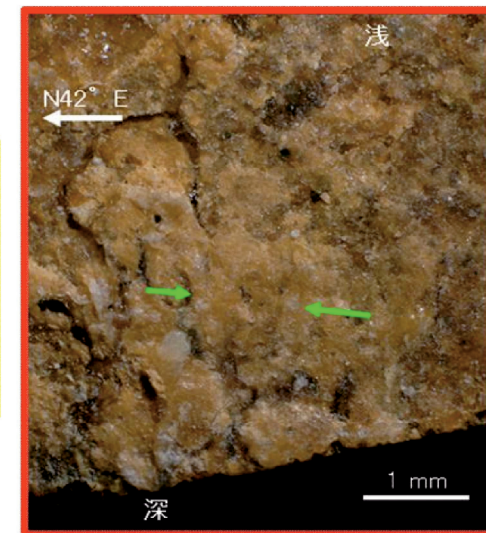


・前頁の図3に、計測した条線値を走向・傾斜等を用いて補正したレイクを赤線で表示している。

図4 最新活動面と走向・傾斜、条線の関係図



条線観察位置拡大



赤枠内拡大

凡例

- 条線方向



H27-B-3 深度76.59~76.89m 最新活動面の走向・傾斜 (No.119) の変更に伴い、条線方向 (No.120) を変更

- 条線観察位置が最新活動面であることを残試料を用いて確認した。

コア写真



凡例  
 ← → 破碎部範囲\*  
 ※:写真上は白色で記載  
 最新活動面

研磨片写真(横から)



凡例  
 ▲ 試料切断方向

条線観察位置



凡例  
 ▲ 条線観察位置

研磨片作製位置



青枠部拡大  
 0 5 cm

凡例  
 ▲ 最新活動面

試料切断面



凡例  
 ▲ 最新活動面

条線観察位置拡大

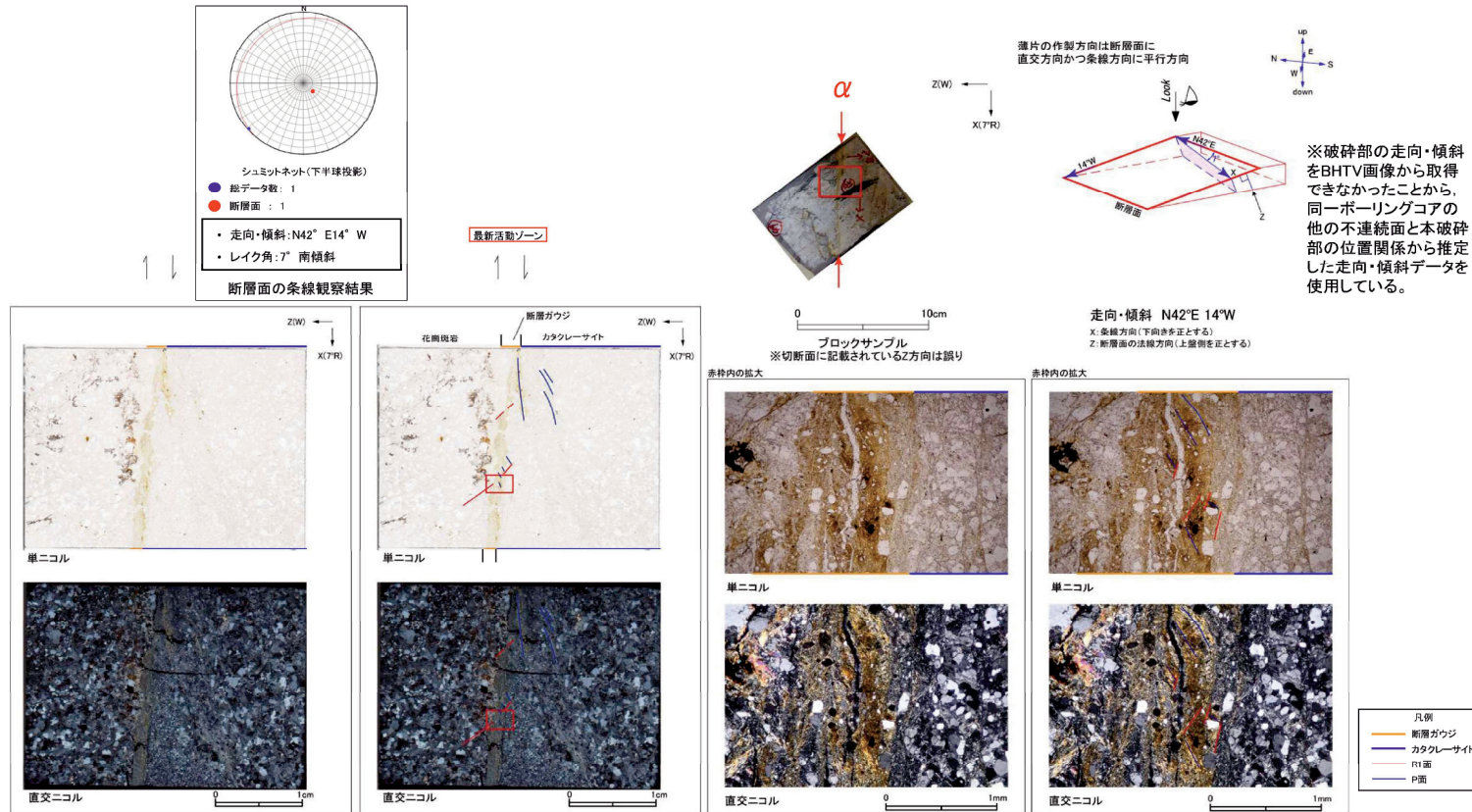


黄枠部拡大

H27-B-3 深度76.59~76.89m 最新活動面の走向・傾斜 (No.119) 及び条線方向 (No.120) の変更に伴い最新活動面の変位センス (No.121) を変更

・薄片試料の作製及び観察は適切に実施されていたが、走向・傾斜 (データなし→N42E14W) , 条線方向 (35R→7R) が変更になることにより、条線方向が低角度に変更となるため、変位センスは右ずれセンスに変更となる。

- ・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
  - (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
  - (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。





**1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響**

・条線方向を2Rに変更。

【理由】薄片試料の再観察の結果、2Rの条線が認められたため。

【断層連続性評価への影響】なし

**2. 変更箇所**

a 条線方向の記載を「2R」に変更。

H27-B-3 深度99.50~99.68m 最新活動面の条線方向 (No.125) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

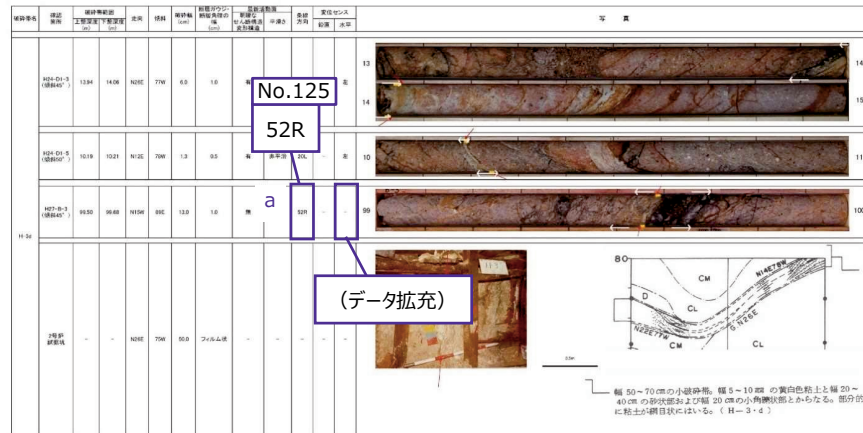
敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-160頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

14.H-1~f-b-4-6破砕帯  
性状一覧表(4/13)



【破砕帯】  
粘土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯  
固結した粘土状破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯  
の設計の幅とし、破砕帯の走向傾斜から其の幅に換算した。

【平常土】  
平常土：最新活動面が連続的なもの  
非平常土：最新活動面が突出するもの

参考2-160

深度 [m]	地層 番号	地層名	地層厚 [m]	地層 色	地層 質	地層 構造	地層 状態	地層 特徴	地層の性状		地層 番号	地層 厚	地層 色	地層 質	地層 構造	地層 状態	地層 特徴
									性状	性状							
99.50	2R	破砕帯	0.18	黄褐色	粘土	破砕	軟弱	破砕	破砕	破砕	2R	0.18	黄褐色	粘土	破砕	軟弱	破砕
99.68	(データ拡充)	破砕帯	0.18	黄褐色	粘土	破砕	軟弱	破砕	破砕	破砕	(データ拡充)	0.18	黄褐色	粘土	破砕	軟弱	破砕

※1 新層岩区分の総合評価に基づき記載し、内層「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、引測値を補正した値を記載  
 ※3 単層しない成分については「-」を記載(両成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)  
 -(上記以外)、データ未取得している箇所

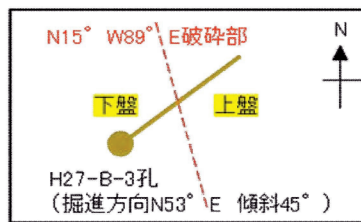
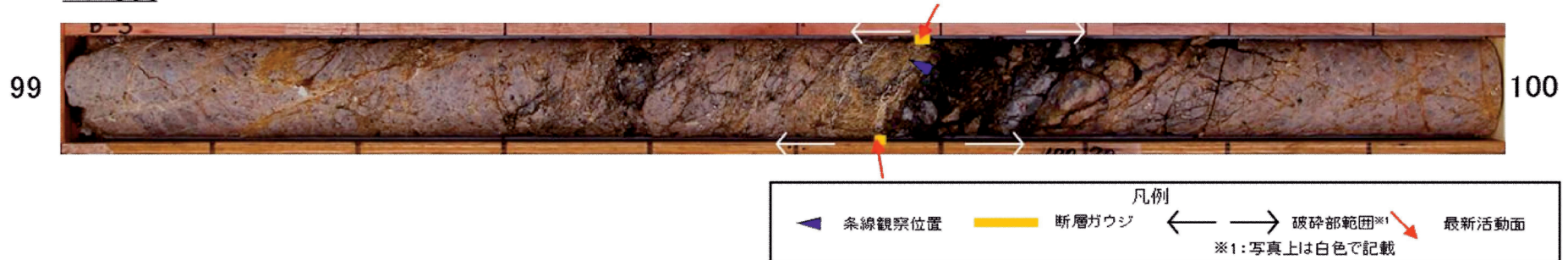
凡例  
 - 最新活動面  
 ← → 破砕帯  
 カラーバーが付いていない区間はカタレーサイトを示す  
 - 新層ガワジ  
 - 新層角礫



H27-B-3 深度99.50~99.68m 最新活動面の条線方向 (No.125) を変更

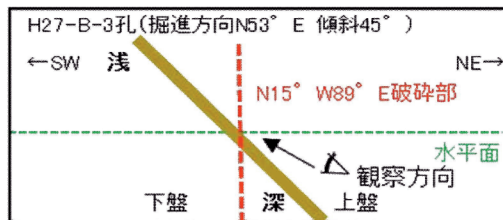
- H27-B-3孔 深度99.56mの断層面の走向・傾斜はN15°W89°Eであり、条線観察は上盤側から実施している。

コア写真



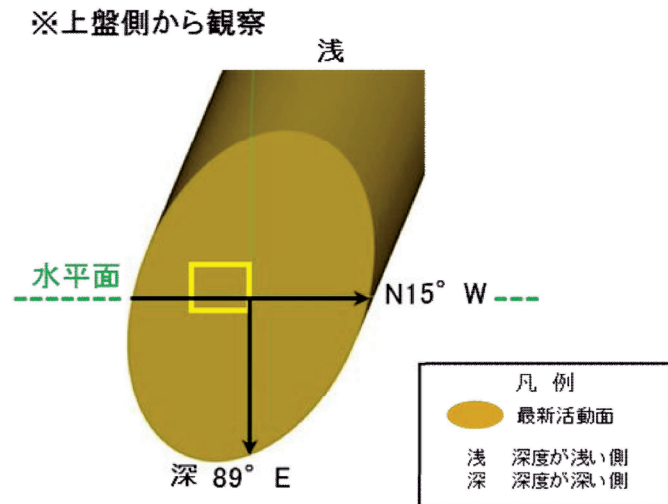
・ボーリングは掘進方向N53° E、傾斜45° で掘削している。  
 ・破砕部の走向・傾斜はN15° W89° Eであり、ボーリングと破砕部の平面的な位置関係は左図のようになる。  
 ・破砕部は東傾斜であることから、西側が下盤、東側が上盤となる。

図1 H27-B-3孔位置平面図(模式図)



・ボーリング(掘進方向N53° E、傾斜45° )と破砕部(走向・傾斜N15° W89° E)をボーリング孔沿いの断面図で示すと左図のようになる。  
 ・ボーリング孔の浅い側が下盤、深い側が上盤となる。

図2 H27-B-3孔を通る断面図(模式図)



※図2で示した観察方向から、最新活動面に正対して描いた3次元的な図

図3 最新活動面と走向・傾斜の関係図